

## ⑤ 力の検討例

意思の  
表明

集団で話し合うことが苦手であるが、各教科の話合い活動やホーム  
ルーム活動に参加したいと希望している。

背景  
実態把握

### Aさんの場合

- ・軽度の難聴がある。補聴器を装着しており、1対1であれば音声のみで会話ができる。授業ではFM 補聴システムを使用している。

### Bさんの場合

- ・慣れない場では吃音が出る。言葉がつまることを気にして、自分の考えをすぐには発言できないことがある。

### Cさんの場合

- ・状況理解の困難さがあり、話の流れに応じた受け答えが難しい。また、他者の感情理解が難しく、思ったことをすぐ口に出してしまう。

学校の  
基礎的  
環境整備

- ・特別支援学校のセンター的機能を活用している。基(1)
- ・特別支援教育コーディネーターがいる。基(2)
- ・必要な生徒に個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している。基(3)
- ・学校にFM 補聴システムがある。基(5)
- ・特別支援教育支援員がいる。基(6)

検討  
決定  
提供

メンバー 本人・保護者・学級担任・各教科担任・特別支援教育コーディネーター・特別支援学校教員・特別支援教育支援員で相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・各教科担任・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・各教科担任・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

### 合理的配慮の内容

- ・前に出て発表する人は、FM 補聴システムのマイクを使用する。また、特別支援教育支援員によるノートテイクを行う。①-2-1
- ・グループにおける話合い活動では、誰が発言しているか分かるように、挙手をしてから発言するように指示する。①-1-1
- ・聞くことの負担を軽減させるため、記録係の役割が回ってきたときは、司会と代わるようにする。①-1-2

### 合理的配慮の内容

- ・安心感を得られるように、話合い活動のテーマを事前に知らせる。①-2-3
- ・緊張を和らげるため、司会のときは定型文を使ったり、小グループでの司会を行ったりする。①-2-3
- ・不安感を軽減させるため、全体での司会の役割が回ってきたときは、記録係と代わってもよいことにする。①-1-2

### 合理的配慮の内容

- ・話合い活動のルールを事前に学習し、本人が確認できるカードを用意する。①-1-1
- ・机間指導の回数を増やし、必要に応じて、話合いの状況を簡潔に伝える。①-2-1
- ・所属感を高められるようにするために、グループの発表係を担当させる。①-2-2

有意義な話合いができた！ 苦手意識が減った！

評価  
見直し

- ・FM 補聴システムの活用やノートテイクは、本人が必要な情報を得るために必要であるため、今後も継続する。
- ・話合い活動で、挙手をしないで発言してしまう生徒がいたので、徹底させる。

- ・事前にテーマを知らせることで、進んで意見を述べるようになった。
- ・小グループでの司会をすることで自信が付いてきたので、今後、全体での司会も挑戦するよう促す。

- ・話合い活動のルールは定着してきたので、カードは必要なときのみ使用する。
- ・今後、グループ編成を配慮し、メンバーが本人に話合いの状況を説明するよう促す。